・弁慶の唐戸石……別には「力石」ともいう。昔、弁慶が当地へ廻遊中、高畑山から大長嶺へ蹴飛ばした石といわれている。大きさは五、六尺から七尺ぐらいで、周囲に加工した跡の全々ないところに面白さがある。暫くして十郎兵エ、権左エ門の二人が「石の中にあるといわれる鎧」を取り出そうとタガネを入れた。ところが一天俄かにかき曇り、遂に割ることができないで帰宅した。その後、二人は発熱し遂に聾になった、なお、七月七日は中の「鎧」の虫干しをするという。